



新たな発見が
生まれる

郷土の歴史を
学ぶ

伝統文化を
継承する

気軽に自由に
過ごす

まち博へよう

飛驒高山
まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛驒高山まちの博物館」

その収蔵品を紐解くと、現在に生きるわたしたちと過去の先人たちのと、刻を超えた出会いが待っています。

広報たかやまでは、収蔵品とそれにまつわるエピソードを紹介していきます。



竹取翁物語解

第十章 学問と文芸

永田酒蔵2階展示室では、学問と文芸の資料を展示しています。

江戸時代中頃には加藤歩齋が俳諧結社「雲橋社」を創設し、飛驒文教の振興に尽力しました。また父の私塾を継承し、後に活躍する赤田臥牛や田中大秀などを輩出します。

臥牛は飛驒の教育の先駆者ともいえる人物です。館柳湾や勝久寺の雪峰和尚らに師事し、飛驒で初めての学問所「静修館」を開きました。儒学などの講義を行い、多くの人たちに学問の道を開いたのです。臥牛、章齊、誠軒と3代にわたり引継がれた静修館は、幕末まで飛驒の教育の中心でした。

大秀は国学と和歌を好み、本居宣長に師事します。飛驒に初めて国学を伝え、

古典研究ですぐれた業績を残しました。「竹取物語」の注釈である「竹取翁物語解」は、現在も全国的に高い評価を受けています。

展示室には、歌人としても著名な室町時代の国司姉小路基綱の和歌をはじめ、長谷川忠崇が編纂した「飛州志」、富田礼彦が編纂した「斐太後風土記」、俳句をよくし、飛驒で初めて渡米した加藤素毛の渡海記録、幕末の三舟と呼ばれた山岡鉄舟などの資料も展示しています。彼らの作品や事蹟は、現在の高山の高い文化性の礎となっています。この機会にぜひ飛驒の学問と文芸にふれてみてください。

問合せ先

まちの博物館
☎32-12005

まちの博物館「ボランティアガイドの募集」

同館にある応募用紙に必要事項を記入のうえ、5月23日(水)までに窓口・郵送・FAXで申し込んでください。

一活動内容の説明会・研修会を開催します—
学芸員と一緒に「まちの博物館」を巡る見学会を行います。【どなたでも参加できます】
5月20日(日) 午後1時30分から(申込不要、直接来館)

利用のご案内

- ◆開館時間 展示室 午前9時～午後7時
研修室 午前9時～午後9時
庭園 午前7時～午後9時
- ◆休館日 無休(臨時休館6月19日)
- ◆観覧料 無料
- ◆駐車場 空町駐車場(市民の方は2時間無料です※証明書要)
〒506-0844 高山市上一之町75 ☎32-1205 FAX35-1970
(まちなみバス「まちの博物館前」下車すぐ)

市長だより⑦

飛驒牛3連覇に向けて
地域がひとつのところで

高山市長 國島芳明

5年に1度開催される「全国和牛能力共進会(全共)」は、和牛のオリンピックとも言われる全国規模の和牛品評会で、今年10月に長崎県で開催されます。

と、ここで過去2回(平成14・19年)の全共で、飛驒牛が肉質のブランドチャンピオンを獲得していたことをご存知でしょうか。和牛のオリンピック2連覇の飛驒牛は、まさに10年間もの長期にわたり、日本一の金メダル保持牛だったのです。今年の長崎全共で飛驒牛が日本一を獲得すると、さらに5年間、日本一のブランド牛として売り出していくことができます。

全国の畜産農家は「打倒飛驒牛」を掲げ、長崎全共に臨んでいきます。対する我々が飛驒牛・畜産農家の皆様も「3連覇」を目指し、日夜飼育や調教などに余念ありません。改めて申し上げるまでもなく、飛驒牛3連覇は決して畜産農家の皆様だけの関心事ではございません。飛驒牛に関わる多くの企業や団体、そして地域のブランドイメージ向上など、非常に裾野の広い事柄であります。

どうか市民の皆様におかれましても、飛驒地域の浮沈に関わる「飛驒牛3連覇」の本意を十分に汲み取っていただき、ひとつのところで飛驒牛を応援いただきますようお願い申し上げます。